



仙台大学 広報室

Monthly Report

東京おもちゃショーに本学から「ボブスレー・スケルトン」を出展—子どもも大人もワクワク体験



ボブスレー・スケルトンの試乗体験の様子＝東京国際展示場（東京ビッグサイト）

6月20日（土）・21日（日）、東京国際展示場（東京ビッグサイト）で「東京おもちゃショー2015（INTERNATIONAL TOKYO TOY SHOW）」（主催：一般社団法人日本玩具協会）が開催されました。今年で54回目を迎える日本最大級の玩具の見本市である“東京おもちゃショー”。今回は、149社・35,000点のおもちゃが展示されました。来場者数は、初日（6/20）が70,350人・二日目（6/21）が70,939人、2日間合計141,289人と大盛況。その中で、子ども文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に、本学から「ボブスレー・スケルトン」を出展しました。

本学からの“東京おもちゃショー”への出展は、今年で連続4度目（1度目は「発電床」・2度目は「認知動作型トレーニングマシン」・3度目は「足こぎ車椅子」）。本学ブースには、2日間で約1,500人の子どもたち（本学ブースへの2日間の総来場者数約5,000人）が訪れ、「ボブスレー」と「スケルトン」の試乗を体験しました。2日間共、本学の千葉勝彦コンサルタント・西塚重良学生支援室長・溝上拓志新助手及びソチ五輪ボブスレー日本代表の黒岩俊喜さん（運動栄養学科4年—神奈川・橘高校出身）が「ボブスレー・スケルトン」の試乗体験を実施。他にも、ボブスレーとスケルトンの写真や映像などを用いて競技の魅力を発信しました。

< 目 次 >

東京おもちゃショーに本学から「ボブスレー・スケルトン」を出展—子どもも大人もワクワク体験	1
仙台大学開放講座「パソコンでオリジナルカレンダーを作ろう」を開催	2
青葉区桜ヶ丘学区連合町内会において仙台大学方式健康運動指導を実施	2
AEDを使い学生たちが関係プレーで救命救急の初期対応	5
仙台大学柔道塾生から初の宮城県チャンピオン誕生	8
学生の競技結果等	11

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツを英語で語るキャンパス創り

"A campus for Sports Education through English"
—LET'S TALK SPORTS IN ENGLISH!—2017年創立50周年
50 years Anniversary of Establishment in 2017 SENDAI UNIVERSITY Since 1967

SPORTS FOR ALL ～スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に～

子どもたちは、初めて実物を見るボブスレーとスケルトンに試乗し、「気持ちいい・怖い・また乗りたい」などと歓声を上げながら楽しそうに体験していました。大人もボブスレーに試乗し、「凄い・かっこいい」などと言いながら写真撮影を行なう様子などが見られました。同試乗体験は、子どもだけでなく大人もワクワクできる充実した内容となり、首都圏で仙台大学の知名度を上げるための絶好の機会になったようです。

【本学が東京おもちゃショーに出展するようになった経緯】

2011年の東日本大震災を期に(一社)日本玩具協会(以下「日玩協」という。)が震災からの復旧復興を目的に「東北子ども博」を企画し、本学を会場として開催する機会を得ることができた。その翌年に日玩協から毎年開催している「東京おもちゃショー」への出展依頼がなされ、2012年より出展し、現在に至っている。

全国私立大学教職課程研究連絡協議会第35回定期総会・研究大会及び分科会を終えて



分科会の様子=仙台大学

平成27年5月30日(土)・31日(日)の2日間、仙台市民会館及び仙台大学を会場に(全私教協)本学の教職員及び教職を目指す学生の全面的な協力を得て開催することができました。

全私教協は1980年に私立大学における教師教育の社会的責務とその重要性に鑑み、教師教育の充実発展に寄与すべく設立されました。今年で35年を迎え、全国8地区団体に加盟する正準会員校398校によって組織されています。

今年度は、東北地区が担当で当番幹事校として仙台大学が大会関係の運営計画等を実施することになり、大学挙げて開催する運びとなりました。

東日本大震災発生から4年余り、この間全国から多数の支援を得て、これまでの復旧の様子を見ていただく絶好の機会にもなった大会初日には、仙台を代表する新緑の定禅寺通に面した仙台市民会館において、全国から600余名の参加者により盛大に定期総会・研究大会が開催されました。また、二日目には、仙台大学を会場に12分科会に分かれ、教員養成に関する諸問題を熱心に討論するなど、有意義な研究大会となりました。特にこの日は、本学が陸上記録会、柴田郡中総体会場ということで、体育系大学活動を紹介する場としての地域貢献が参加者の胸に強く響いたことでしょう。

最後になりますが、大会期間中大きな混乱もなく実施でき、大学関係者の全面的なご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

<報告:教職支援センター長兼教授
青沼 一民>

気仙沼の海岸にて集中捜索活動のボランティアに参加



6月13日(土)気仙沼市岩月千岩田の海岸にて警察、ボランティア合同の集中捜索活動を行いました。

本学からは学長、学生6名(3年体育林佳宜、佐藤修平、3年健康福祉皆川由香、3年現代武道秋葉悠哉、1年体育佐藤恒一、1年健康福祉永岡佳樹)、職員2名が参加しました。スコップで砂浜を掘ったり、津波で壊れた防潮堤を覗き込んだりして手がかりを探しました。途中、気仙沼在住の本学卒業生、柳川正博先生(11回生、宮城県本吉響高等学校教諭)が、差し入れを持ってかけつけてくださいました。

今回の捜索活動では、人骨の可能性のある骨25本が見つかり、本学学生も数本見つけて、参加の意義を感じているようでした。現状を目の当たりにして参加学生は「大事な活動、今後も継続的に支援ができるように、学校に帰ってからも、こうしたボランティア活動を広めたい」と話していました。

<報告:学生課 平井孝秀>

仙台大学開放講座「パソコンでオリジナルカレンダーを作ろう」を開催



Wordの基本的な操作を教える藤本講師(中央)
＝仙台大学情報処理実習室

6月4日(木)、本学KMCH大会議室で『平成27年度みやぎ県民大学 仙台大学開放講座「パソコンでオリジナルカレンダーを作ろう」』の開講式が行なわれ、県南の地域住民約60名の受講生が集いました。

今回の開放講座では、パソコンを使用してオリジナルカレンダーを作成します。パソコンの基本操作や写真の加工方法などについて知り、オリジナルカレンダーをきれいに作る「コツ」を学ぶ内容となっています。

はじめに、仲野隆士副学長が「自分流に自由な発想でカレンダー作りを楽しんでほしい」と挨拶。続いて、岡田成弘講師(開放講座責任者)が開放講座の概要を説明され、同開放講座の講師である藤本晋也講師を紹介しました。藤本講師は「カレンダーに運動を行なう予定を記入しやすく工夫するなど健康的な要素を組み入れることで、体育大学(仙台大学)でカレンダーを作成する意味を持たせたい。力まず楽な感じで参加してほしい」と話されました。

開講式終了後、受講生たちは、本学情報処理実習室に移動し、Word(ワード)でカレンダーを作成するときの基本的な操作を学びました。受講生の富樫千津子さん(65歳)は、「パソコン操作は難しく、自分には出来ないと思っていましたが、先生が丁寧に教えて下さるので安心しました。これからどれだけ自分が上達できるか楽しみ」と感想を話されました。

青葉区桜ヶ丘学区連合町内会において仙台大学方式健康運動指導を実施



平成27年6月4日(木)14:00から仙台市青葉区桜ヶ丘コミュニティセンターにおいて、健康づくり運動サポート活動を実施しました。今回は同法人の明成高等学校の所在地であり、日頃から地域でお世話になっている桜ヶ丘学区連合町内会からのご要望により実現したもので、桜ヶ丘学区内にある15の町内会からすべての代表者が集まり総勢33名の方々に参加いただきました。

はじめに医師の橋本実教授による「100歳まで元気に生きるコツ」と題した健康講話が行われ、健康寿命を延ばすためには、血管を健康に保つことが重要で、それには「運動」と「食事の質」が大切であること、適度な運動を行うことで何歳になっても筋肉量を増やせることなどが話されました。

参加された連合町内会会員の皆さんは聞きながら聞き入り、本学の健康講座に参加する80歳代男性が、運動指導の前と後でどう変化したか比較映像を観ると明らかに良い変化があることに驚かれ、適度な運動がもたらす効果を実感された様子でした。

続いて、スポーツ健康科学研究実践機構の齋藤まり新助手と、本学独自の資格である健康づくり運動サポーター中級取得者の佐藤達也さん(体育学科4年)、穴戸香菜子さん(健康福祉学科3年)による運動指導が行われました。また明成高等学校内川平分室にアスレティックトレーナーとして勤務する白坂広子新助手と小野勇太新助手も参加し自己紹介をしました。じっくりと準備運動をした後は、頭の体操を交えたレクリエーションや椅子を使って足の筋肉を鍛える運動などがいくつか紹介され、随所に大きな笑い声が響く楽しい運動教室となりました。

桜ヶ丘学区連合町内会の酒井典雄会長は、「オリンピック選手も輩出する仙台大学の先生方や学生の皆さんに楽しい運動指導をしていただき今日は感謝で一杯です。桜ヶ丘団地は現在32パーセントが高齢世帯の現状です。今日のような教室に参加したことで、より健康に対する意識も高まりました。本当にありがとうございました。」と話されました。

参加された会員の方々には皆一様に頬の筋肉もほぐれた様子で、今日は笑って運動でき楽しかったと笑顔で感謝の言葉を話されていたのが印象的でした。

女子サッカー部と女子ハンドボール部合同で野外トレーニングを実施



アイデアや意見を出し合って、与えられた課題を1つ1つクリアしていくグループ活動の事です。

近年、JリーグのチームやサッカーS級ライセンス講習会、競泳日本代表など多くの競技団体がこのASEを実践しており、グループやチームワークを高めるのに大変有効な活動として、今、日本スポーツ界で注目されています。

今回の女子サッカー部とハンドボール部の合同ASE体験では、

- 1) 対人相互理解（自己および他者理解）を深める
 - 2) コミュニケーション能力を高める
 - 3) 部員同士および同じ仙台大学の学生同士の絆を深める
- を目的として行われましたが、競技の枠を超えた仲間意識と本学の学生らしい澁刺とした笑顔が印象的な大変有意義な活動でした。



平成27年6月13日（土）山形県西置賜郡源流の森にて、本学の岡田講師および岡田ゼミ生の指導の下、女子サッカー部と女子ハンドボール部の合同で野外トレーニングを行いました。

通称ASE（Action Socialization Experience）と呼ばれる野外トレーニングは、仲間達と

女子サッカー部黒澤監督は、「このような活動を通じてチームビルディングを図ると共に学生同士が切磋琢磨してアスリートとしての資質を高め、学生自らが仙台大学を盛り上げていくきっかけになれば」と話しておりました。

<報 告：岡田成弘講師&黒澤尚助教>

NSCAジャパン最優秀指導者賞ストレンクス&コンディショニングコーチ・オブ・ザ・イヤー授賞：加賀洋平氏



6月21日日曜日に、日本教育会館一ツ橋ホールにて2014年NSCAジャパン最優秀指導者賞ストレンクス&コンディショニングコーチ・オブ・ザ・イヤーの授賞式があり、その受賞者として参加してまいりました。

この賞は、ストレンクス&コンディショニングコーチとして、会員の手本となる功績をあげたと認められるNSCA会員に対して、その功績を讃えて授与される賞として昨年新設され、私はその最初の受賞者となりました。

この賞の受賞対象年は2014年のみですが、今回の受賞は、2008年に朴澤理事長に日本では非常に稀有な大学S&Cプログラムを展開する職務を頂いてから2014年までの7年間に積み重ねてきた全ての指導に加え、私が指導担当した学生運動選手達の努力や、私の下でS&C指導者になるべく懸命に勉強した全ての教え子達のサポートの賜物と理解し、その全てのプライドを持って賞を受け取ってまいりました。

今年度からは職も立場も変えてその仙台大学S&Cプログラムをサポートしていますが、今後もこのプログラムからまた新たな受賞者を輩出できるよう、より質の高い人材育成につながる環境造りに関わっていけたら、と願っております。

また、この場を借りての報告となりますが、昨年度を最後に私は仙台大学でのフルタイムの職務を去り、現在は地元東京深川に拠点を移し、国内のS&C業務の新たな可能性を模索するために奔走しております。本学にてお世話になった方々におかれましては、昨年度までの長きにわたるご指導、ご助言、心から感謝いたします。

今年度も月に数度は来校してトレーニングセンターでの指導業務に勤しんでいます。出勤頻度は減りましたが、今後も仙台大学S&Cプログラム発展のために精一杯励んでまいりますので、プログラム共々、どうぞよろしくお願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

<報 告：仙台大学客員研究員(非常勤研究員)
加賀 洋平>

AEDを使い学生たちが関係プレーで救命救急の初期対応



6月12日（金）夕方、柴田町船岡南グランドサッカー場近くで、停車中の自動車が畑に後ろ向きに突っ込む事故がありました。

その場に通りがかった、硬式野球部の庄子順也さん（体育学科3年）と松井健さん（体育学科3年）が不審に思い、その自動車を覗きこんだところ、運転席で意識朦朧としている50代男性を発見しました。女子サッカー部の升川礼衣奈さんも駆けつけ、お互いに状況を確認し、このままだと命に関わるのではないかとすぐに助けなければいけない。との咄嗟の判断で警察と消防に連絡をし、救急隊が到着するまでの間、AEDを使用しての救命活動を行いました。

その時出動された柴田消防署救急隊の下山さんにお話を伺うと、「AEDを使用しての、まさしく模範的対応でした。AEDを作動させ「必要ない」の自動メッセージが流れたことにより電気ショックを与えなくても良い状況となりましたが、AEDを使ったからこそ出るメッセージです。もし、心細動などが起きていたならば使用しなければならないこともあったと思います。救急隊が到着するまでの間も、男性の観察を続け適切な対応をしていただきました。また救急隊が到着してからも活動を最後まで見守り、発見時の状況を詳細に聞き取ることが出来ました。ありがとうございました。学生のみなさんの対応は、大変立派でした。」とお褒めの言葉をいただきました。

病院へ搬送された男性は、病院へ到着するまでには話ができる状態になり、命に別状はなかったということです。

ますかわ れいな

升川 礼衣奈さん（体育学科3年）

「教職キャリア演習」の授業で、実習先の名取市高館小学校の先生方と共に、水泳の授業前に毎年実施されるAED講習を前日に受けたばかりでした。庄子君と松井君と連携し、サッカーグラウンドのクラブハウス内に設置されていたAEDを取りに行き心肺蘇生活動を行いました。今振り返れば、脈拍の確認など他にもしなければならぬ事があったかもしれないと思うのですが、その時は無我夢中でした。

丁度前日に、AED講習を受けていたためAEDを使用することに戸惑いは全くありませんでした。女子サッカー部の危機管理マニュアルがあり、黒澤監督からチーム内で各自AEDの場所を確認しておくよう指導されていたので、サッカー場へ迷わず取りに行くことが出来ました。事故に遭われた男性も無事意識が戻られたと聞き本当に良かったです。

まつい たける

松井 健さん（体育学科3年）

目の前で畑に車が突っ込むのを目撃しました。運転席の男性に声をかけるとあまり反応がなく、肩をたたいても反応が鈍かったため、110番の通報し状況説明をしました。警察や消防の方が到着するまでの時間は10分ぐらいでしたが、待つ時間は長く感じ、初動対応の大切さを痛感しました。

しょうじ じゅんや

庄子 順也さん（体育学科3年）

AEDが到着するまで、胸部圧迫心臓マッサージをしていました。一人ではここまでは出来なかったかもしれませんが、松井君や升川さんが一緒に対応してくれたおかげです。自分の進路の一つの選択肢として教員を目指していますが、教員になった時、このような緊急の場面でどうすべきか、自分の言葉で伝えていけたらと思います。

仙台大学には、AEDが10か所（C棟実験室、第4体育館ATルーム前、第5体育館エントランス、健康管理センター前、屋内プール、明仙バスケラボに2か所、サッカー場、第2グラウンド、漕門館、管理課（実習等での貸出用））に設置されています。

体育系大学で学ぶ学生たちが、大学内のAEDを使って救命活動を行い、救われた命があった事実は、とても誇らしい出来事でした。

熱中症勉強会開催報告



第一回は6月8日（月）参加者7名場所はKMCH一階大会議室、第二回は6月10日（水）参加者20名（AT部学生対象）場所は第四体育館一階演習室、第三回は6月18日（木）参加者13人場所はKMCH一階大会議室で実施しました。独立行政法人日本スポーツ振興センターによると、平成25年度の熱中症による死亡事故は、幼稚園から高等学校の間で5264件発生しました。熱中症はひどい場合は死に至る危険な状態です。いざという時の対処法を知ることにも必要ですが、発症を予防する活動の実施が最も重要であると認識しています。アスレティックトレーニングルーム（以下ATルーム）では、今回のような勉強会開催を通し、正しい知識を各運動部に広げ、皆で熱中症事故をゼロに防いでいくことを目標としています。

今回の勉強会には、各運動部の部長・マネージャー・興味のある学生などに参加してもらい、3回の実施で15部活動からの参加がありました。内容は熱中症の症状別対処法、予防法、スポーツパフォーマンス向上のための水分補給などを実施しました。

参加者の女子ハンドボール部の畑澤亜由美さん（健康福祉学科2年）は勉強会を経て次のようにコメントしています。

「熱中症勉強会を受ける前の私は、知っているつもりが多く、改めて熱中症の様々な症状や予防・対策法の基礎知識を確認し、身に付ける事ができました。熱中症は夏の季節に多く見られ、一度に様々な症状を発症し、最悪の場合死に至る危険をもたらします。これから夏を迎えるにあたり、熱中症患者が多く出てくるはずですが、そうならないためにも、部活動中や運動を行う際はもちろん、普段の生活の中でも今回の勉強会で学んだ事を活かして取り組んでいきたいです。また、私からも多くの人に熱中症予防啓発について発信できることは伝えていきたいです。」

毎年本学ATルームでは、熱中症危険度が増す6月～9月の間、体育館やグラウンドにてWBGT（湿球黒球温度）の計測を実施しています。WBGTとは、人体に影響の大きい気温・湿度・輻射熱（直射日光）の3つを取り入れた指標の事で、計測結果は①ほぼ安全 ②注意 ③警戒 ④嚴重警戒 ⑤運動は原則中止の5項目に分けられています。夏場になると、嚴重警戒や運動は原則中止などの計測結果が出ることも多いので、その際には熱中症に十分注意しながら運動を行ってほしいと思います。各計測地点にも掲示板を設置していますが、今年は毎日14：00頃～第三体育館スクリーンでも結果が上映されているので、そちらも是非活用してほしいと思います。



今後本学ATルームでは、熱中症のみならず学内のスポーツ環境を安全に保つために、勉強会を開催していく予定です。

今後本学ATルームでは、熱中症のみならず学内のスポーツ環境を安全に保つために、勉強会を開催していく予定です。

<報告：新助手 鈴木のぞみ>

柴田町郵便局に本学の情報配信コーナーを常設

阿部学長と大沼局長(右)が地域への情報発信のあり方について話し合う
柴田町郵便局



6月12日（金）より、柴田町郵便局ATMコーナー内に、本学の情報配信コーナー（仙台大学広報誌・仙台大学大学案内リーフレットなど）を常設して頂くことになりました。

これは、地域への情報発信の一環として、阿部学長が発案。阿部学長が柴田町郵便局の大沼芳則局長と直接交渉し、実現したものです。



後日、大沼局長より「熊原君の表紙の冊子は、その日うちになくなりました。反響も上々ですね」とご連絡を頂きました。今後も、地域の皆さまに本学についてより多く理解して頂けるような情報配信を心がけていきたいです。

なお、本学教職員の皆様も、地域の皆様へ何か情報発信したい事がありましたら、広報室までお問い合わせ下さい。

本学を会場に2015年度「NR.サプリメントアドバイザー」レベルアップセミナー開催



6月20日（土）、本学B棟300教室を会場に「NR. サプリメントアドバイザー認定資格」（一般社団法人日本臨床栄養協会の認定資格）におけるレベルアップセミナーが開催されました。

一般・学生の総勢約30名が参加し、サプリメントアドバイザーとして更なるレベルアップを図る機会となりました。日本栄養協会の方々と講師には仙台白百合女子大学：佐々木裕子准教授、株式会社グローバルニュートリショングループ：武田猛代表取締役をお招きし、「応用栄養学」・「機能的表示食品」についてご講話いただきました。有資格者として本学運動栄養学科の卒業生2名および在學生2名が参加しました。

きむらしおり

そのうち、在學生参加者である木村汐里さん（運動栄養学科3年一群馬・館林女子高校出身）は「高齢者の多くが健康の為にサプリメントを活用しているという話を聞いて驚いた。使い方によっては、命に関わる可能性もあるので、正しい情報を提供し、利用者が自分に合ったサプリメントを使用できるよう支援していきたい。」と決意を新たにしていました。

今日のレベルアップセミナーを通じて、利用者にアドバイスをしていくにあたり、こちら側から一方的に話をするだけでなく、利用者に対して親身になり、支援することが大切であると学びました。

今後も一人でも多くのサプリメントアドバイザーが増えてほしいと思います。

<報 告：新助手 只野瑞恵>

本学内の知られざる社会貢献へのご案内



第5体育館に入って左に進んだ一番奥の右端にひっそりとスペシャルオリンピックス日本・宮城（以下S O宮城）専用のジュースの自動販売機が設置されています。その存在を知っている教職員、学生はどのくらいいるでしょうか。コカコーラ社の自動販売機なのですが、ジュースの購入代金の一部がS O宮城の活動資金として寄付されることになっています。確か2年前、S O宮城理事長からの依頼があり管理課を通して当時の朴澤学長にお話させていただき設置に至りました。

一方、この4月より学内4ヶ所にS O宮城設立20周年記念チャリティーボックスを設置していただいています。庶務課、学生課、学生支援センター、KMCHの4ヶ所です。



こちらは、12月末に回収させていただき、全額がS O宮城の活動資金として寄付されることになっています。

知的障がいのある人々に年間を通したスポーツプログラムと競技会を提供する国際的なスポーツ組織であるスペシャルオリンピックスは、紛れも無くIOCが認めたオリンピックの1つとして今日に至っています。

詳細はhttp://www.son.or.jp/topics/201203_02.htmlを参照ください。

1994年にS O日本が設立され、翌年の1995年に6番目の地区組織としてS O宮城が設立されました。設立当初、理事長が副会長で、私がスポーツプログラム委員長に就任しました。1995年から私は本学会場にテニスプログラムを毎年実施してきました。3.11の1年だけはお休みしましたが、かれこれ19年継続してテニスプログラムを硬式テニス部員たちと一緒に20名程度のアスリートのコーチングに取り組んできました。宮城では12種目程度のプログラムが展開されているので、興味のある学生達に関わっていつでももらえるとうれしいです。

教職員並びに学生のみなさま、チャリティーボックス等へのご協力よろしくお願いたします。

<スペシャルオリンピックス日本・宮城理事 仲野隆士>

仙台大学柔道塾生から初の宮城県チャンピオン誕生



6月14日（日）、古川総合体育館武道場（宮城県大崎市）で「平成27年度第12回全国小学生学年別柔道大会宮城県予選会」が行なわれ、仙台大学柔道塾生のごぼうあおと

後坊蒼斗君【写真左】（小学6年生男子50kg級）が優勝しました。同柔道塾生から宮城県チャンピオンが誕生したのは、今回が初めて。後坊君は、平成27年8月30日（日）に小瀬スポーツ公園武道館（山梨県甲府市）で開催される全国大会に、宮城県代表として出場することが決まりました。

南條充寿塾長【写真右】（仙台大学准教授／全日本女子柔道監督）は「蒼斗は常に攻める果敢な姿勢が持ち味の選手。勝っても負けても経験。全国での経験を次の稽古に繋げ、更なる成長を期待したい」とエールを送りました。

見事、優勝を果たした後坊君に、柔道を始めたきっかけや全国大会での抱負などについてお話を聞きました。

柔道を始めたきっかけは一5歳（幼稚園の年中）から柔道を始めました。自分の身を守りたい・強くなりたい・目立ちたい・有名になりたいと思い始めたのがきっかけです。今は柔道が楽しくて充実しています。

憧れの選手は一背負投の名手で、ロンドンオリンピック柔道66kg級銅メダリストの海老沼匡（えびぬま・まさし）選手です。

全国大会での抱負は一右利きなので、左組手が苦手。苦手を克服し、真面目に一生懸命稽古に励んで優勝したいです。将来の夢は、オリンピックで金メダルを獲得することです。応援して頂けたら嬉しいです。

仙台大学柔道塾とは？

幼児・小学生等を対象とした柔道の普及を図り、柔道を通じて塾生の健全な精神と身体を養うこと、塾生相互の親睦を図り、地域社会の連携を深めることを目的とした本学独自の取り組みです。2011年7月、柴田町柔道スポーツ少年団から仙台大学柔道塾として新たにスタートし、現在は塾生も40人を超え、日々鍛錬に励んでいます。

女子サッカー部、MF加賀孝子主将とDF須永愛海選手がユニバ代表に選出

本学女子サッカー部のMF加賀孝子主将【写真左】（スポーツ情報マスメディア学科4年—ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出身—宮城・聖和学園高校出身）とDF須永愛海選手【写真右】（体育学科3年—JFAアカデミー福島出身）が、7月2日（木）から韓国・光州で開催する「第28回ユニバーシアード競技大会」の女子サッカー日本代表に選出されました。

ユニバ日本代表の2名同時選出は、東北地区大学サッカー界（男子含む）初の快挙です。また、同大会のコーチとして、本学女子サッカー部の黒澤尚監督も帯同します。

前回大会（2013年7月／ロシア・カザン）に続き、ユニバ日本代表に選出された加賀主将は、「前回大会（日本は5位）は負けた悔しさ、自分のプレーが出来なかった不甲斐なさが残る大会でした。今回は、自分の持ち味である足元の技術を生かしたボールコントロールを披露し、チームの勝利に貢献したい」と話し、ユニバ日本代表に初選出された須永選手は「自分の持ち味はスピード。インターセフトから果敢なオーバーラップでチームを活性化したい。優勝できるようにチーム一丸となって、一戦必勝の気持ちで戦いたい」と大会に向けた抱負を話しました。



黒澤監督は「加賀・須永共にチームの核となって、得点に絡んでほしい。力は十分通用するので、自分たちの良さを出しながら、自信を持ってプレーしてほしい」と話し、「ユニバ（国際大会）の経験を個人の成長と部（仙台大学女子サッカー部）の底上げにつなげてほしい」と期待を込めて話しました。

なお、ユニバーシアード日本代表チームは、1次リーグで7月2日（木）にロシア、4日（土）にコロンビア、6日（月）にメキシコという対戦スケジュールが組まれています。

柔道部、男女初戦で涙—全国の壁を痛感



6月27日（土）、団体戦（男子7人制・女子5人制）で争う「全日本学生柔道優勝大会（男子64回・女子24回）」が日本武道館（東京都千代田区）で開催され、本学男女柔道部が出場しました。

東北学生柔道優勝大会で初優勝し、勢いに乗る本学男子の初戦では、中央大学と対戦。最後まで果敢に攻めましたが、0-6の完敗。その中で一人、萩本恭輔選手（現代武道学科1年—茨城・磯原郷英高校出身）【写真上（左）】が粘りの柔道を見せ、引き分けに持ち込みました。

東北学生柔道優勝大会9連覇中の本学女子の初戦では、関東の強豪・淑徳大学と対戦。紙一重の差を埋めきれず、接戦の末1-3で敗れました。その中で一人、次鋒・工藤千佳主将（現代武道学科4年—青森・五所川原農林高校出身）が得意の“内股”で一本を奪い、一矢報いました。

残念ながら男女共に初戦で敗れ、全国の壁を痛感する大会となりました。試合後、本学女子柔道部の南條和恵監督は「10月に開催される団体戦（7人制）では、この悔しさを胸に、一泡吹かせたい」と新たな気持ちを話しました。



【写真下（右）：女子大将・大枝郁美選手（体育学科4年—茨城・水戸葵陵高校出身）が攻め続けるも惜しくも引き分け】

全日本大学野球選手権—初戦敗退、熱い応援で選手を鼓舞

6月8日（月）、東京ドームで「第64回全日本大学野球選手権大会」の1回戦が行なわれ、仙台大学（2年連続2度目／仙台六大学野球連盟）は九州産業大学（2年連続16度目／福岡六大学野球連盟）と対戦し、0－3で敗れて初戦敗退となりました。

試合は、エース熊原健人投手（体育学科4年－宮城・柴田高校出身）が13奪三振を奪う力投を見せましたが、拙守に泣きました。打線は相手好投手を攻略できず、2安打16奪三振を喫し完敗。しかし、昨年は8強入り、2年連続「全日本大学野球選手権」に出場し、最後まで諦めずに戦った仙台大学硬式野球部の選手たち。三塁側の応援スタンドには、本学硬式野球部OBや同窓生、姉妹校である明成高校吹奏楽部の生徒、選手の父兄らに加え、今年も本学の所在地である柴田町から本学硬式野球部を支援する有志の会「川交会（せんこうかい）」の皆様らが応援に駆け付け、計約600名の大応援団が熱い応援で選手を鼓舞。初戦で敗れましたが、仙台大学ナインの戦いぶりに、大きな拍手が送られました。



力投する熊原投手＝東京ドーム

応援に駆け付けてくださった本学硬式野球部OBの森洋祐さん（36歳）（平成14年体育学科卒）は「居ても立ってもおられず、今年も応援に駆け付けました。後輩たちの活躍を誇りに思います。負けたことは非常に残念ですが、早く気持ちを切り替え、秋（明治神宮野球大会）を目指して頑張ってもらいたいです」と話し、後輩たちの今後の更なる飛躍を期待しました。



約600名の大応援団が選手たちに熱いエールを送りました。

硬式野球部、東北地区大学野球選手権「初優勝」を果たす



初優勝を喜ぶ仙台大ナイン＝仙台市民球場

6月29日（月）、仙台市民球場（仙台市宮城野区）で、東北の王者を決める「第10回東北地区大学野球選手権」の準決勝・決勝が行なわれ、仙台大学（仙台六大学野球連盟1位）が見事初優勝を果たしました。

準決勝では、エース熊原健人投手（U21野球日本代表／体育学科4年－宮城・柴田高校出身）がノースアジア大学（北東北大学野球連盟5位）に1安打12奪

三振を奪う快投を見せ、5－0で完封勝利を挙げました。

決勝では、準決勝で東北福祉大学（仙台六大学野球連盟2位）を4－7で退けた富士大学（北東北大学野球連盟1位）と対戦。試合を決めたのは、2－

2で迎えた6回裏2死一二塁で、7番・三浦大希捕手（体育学科2年－宮城・柴田高校出身）が放った左

越えの逆転2点二塁打。最後は、先発・影浦雅人投手（体育学科4年－北海道・旭川実業高校出身）を

救援した馬場皐輔投手（体育学科2年－仙台育英学園高校出身）が強気の投球を見せ、粘る富士大学打線を4回1失点に抑え、4－3で振り切って、優勝投手に輝きました。

なお、大会最優秀選手賞には、今大会打率4割6分6厘・8打点の活躍を見せた大坂智哉一塁手（体育学科3年－青森山田高校出身）が選ばれました。

次は、仙台六大学野球秋季リーグ戦優勝（春秋連覇）を目指し、チーム一丸となって臨みますので、引き続き本学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。